

かほく市教育委員会

# 令和6年度 全国学力・学習状況調査 結果の概要



## 1. 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. かほく市における学力向上の取組

- ◆ 昨年度の学力調査において、平均正答率は全国平均を上回っていたものの、小学校では、国語、算数ともにわずかに県平均を下回っていた。そこで、授業のユニバーサルデザインと個に応じた指導の一体的な充実に努めてきた。
- ◆ 昨年度の質問紙調査において、小中ともに ICT 機器の活用が県平均を上回っていることが分かった。指定校による公開研究発表会等を通して、ICT 機器を活用することの良さを市全体に広く発信した成果である。そこで、発達段階や教科の特質に応じた1人1台端末の効果的な活用を目指してきた。
- ◆ 他校の同一教科担当者と連携した教科研修会を開催し、市学校教育の重点を意識した授業づくりについて協議したり、相互授業参観を実施したりしながら授業改善に努めてきた。

### ■ 実施日

令和6年4月18日

### ■ 対象学年

小学校第6学年  
中学校第3学年

### ■ 調査内容

#### 【教科】

国語  
算数・数学

#### 【質問紙】

児童生徒質問調査  
学校質問調査

### ■ 留意点

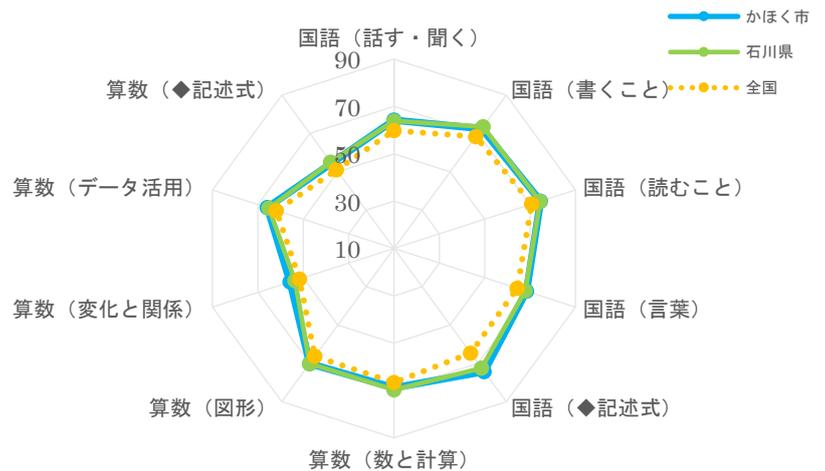
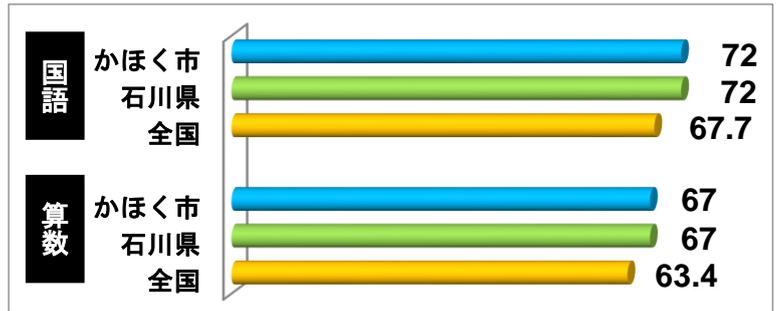
本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、また学校における教育活動の一側面であることから、教育上の効果や影響等に十分配慮して扱うこととする。

### 3. 教科に関する調査の結果

## 小学校6年

#### 【傾向】

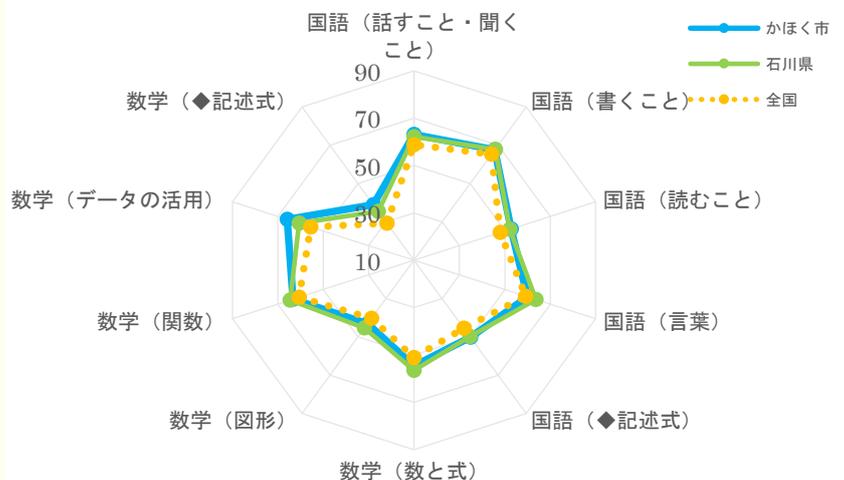
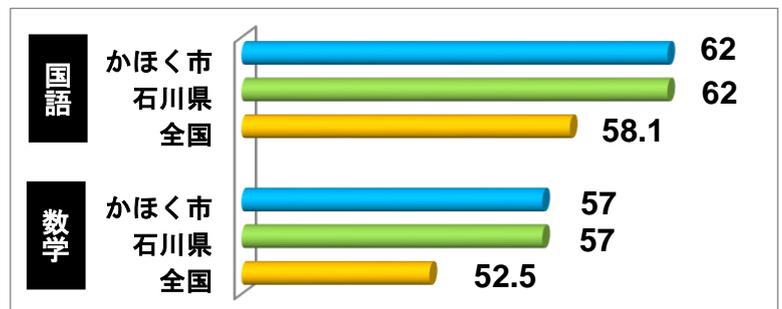
- 国語、算数ともに全国平均を上回り、県平均と同程度であった。
- 国語、算数ともに無解答率が全国及び県よりも低く、問題解決への意欲が高い。
- △ 国語では、目的に応じて、集めた材料を分類したり関連付けたりすることや、文の中における主語と述語との関係を捉えることにやや課題がみられる。
- △ 算数では、「記述式」の正答率が県平均をわずかに下回った。



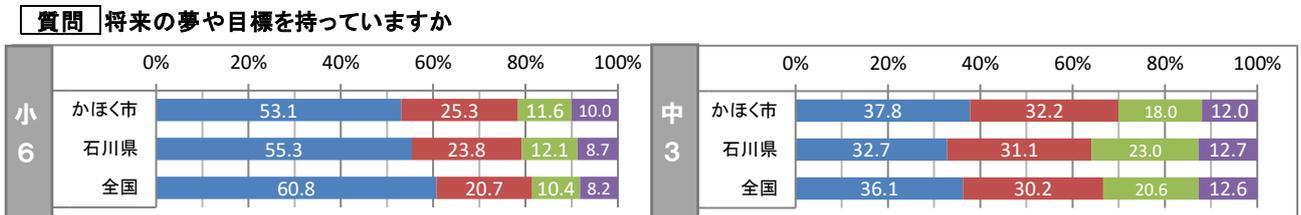
## 中学校3年

#### 【傾向】

- 国語、数学ともに全国平均を上回り、県平均と同程度であった。
- 「記述式」の平均正答率は、国語、数学ともに国や県の平均を上回り、数学では改善傾向がみられる。
- △ 国語では、短歌に用いられている表現の技法についての理解に課題がみられる。
- △ 数学では、等式を目的に応じて変形することや、一次関数に関する基本的な知識・技能の定着にやや課題がみられる。



## 4. 児童生徒に対する質問紙調査の結果



### 【傾向】

かほく市と県全体を比較すると、

- 学校が楽しいと思い、授業で課題解決に向けて取り組んでいる児童生徒が多い。
- 規範意識が高く、いじめはどんな理由があってもいけないことだと答える児童生徒が多い。
- 話し合い活動を通じて、考えを深めたり新たな考えに気付いたりすることができていると答える児童生徒は県平均を上回っている。
- △ 小学校では、国語、算数の勉強は好きと答えた児童はやや少ない。
- △ 小学校では、学校の授業時間以外に、勉強をする児童は少ない。
- △ 家庭の蔵書量が一定数以上あると答えた児童生徒はやや少ない。

その他の質問項目から	小学校		中学校	
	肯定的な回答の割合 (%)	県平均との差	肯定的な回答の割合 (%)	県平均との差
国語の勉強は好きですか	58.2	-4.0	70.4	1.8
算数・数学の勉強は好きですか	61.9	-1.4	68.5	7.8
学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（1時間以上）	43.8	-10.6	63.3	4.0
自分には、よいところがあると思いますか	81.8	0.0	85.3	1.6
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.3	1.3	93.6	4.5
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	89.7	0.1	92.5	5.9
学級の友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	90.1	2.8	94.8	6.9
これまでに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	83.1	-0.4	89.5	5.9
小5、中2までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか → 週3回以上	71.5	7.9	71.2	-0.8
あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか。（雑誌、新聞、教科書は除く） → 26冊以上	53.1	-10.7	56.9	-2.6

## 令和6年度 かほく市学校教育の重点

- 1 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- 2 組織的な特別支援教育と新たな生徒指導の推進
- 3 いじめ・不登校への適切な対応と安心できる居場所づくり
- 4 中学校部活動地域移行の推進
- 5 学校体育館空調設備の導入及び学校施設の早期震災復旧

## 5. 全体を通して

- ◆ 小6、中3ともに、全国平均に比べ「記述式」の問題の正答率が高いことから、「書く力」の育成が図られていることが分かる。また、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりする機会が充実していることがうかがえる。
- ◆ 各学校では一人一人の児童生徒の成長やつまづきなどの理解に努め、個に応じた指導や教材の工夫、学習時間の設定などが進められている。
- ◆ 1人1台端末などのICT機器の活用について、小学校では昨年度以上に県平均を上回り、積極的な活用が推進されていることが分かる。
- ◆ 質問紙調査の「教科の勉強は好きですか」や学習時間の質問に対し、小学校では肯定的な回答をする児童の割合が、全国や県の平均をやや下回り、学習意欲の低下がうかがえる。

**質問** これまでに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



## 6. 今年度の課題と改善の方向性

- ◆ 今年度の学力調査において、平均正答率は全国平均を上回ったものの、県平均とは同程度であった。一方、学習内容の定着が十分ではない児童生徒がみられる。そのため、個に応じた指導や教材の工夫とともに、児童生徒が互いに関わり合いながら、主体的に学習に取り組む態度の育成が一層求められる。そこで、各学校の課題解決に向けた取組とともに、次の3点を学力向上の重点として取り組むこととする。

- ◇ 児童生徒一人一人が、自分に合った学び方を学ぶ授業づくりを工夫する
- ◇ 子供主体の授業の実現に向けて、1人1台端末を効果的に活用する
- ◇ 他校の同一教科担当者や小中で連携し、指導の連続性を図る

- ◆ 今後は、指定校による授業公開等を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組を進めている学校の好事例をかほく市全体に広く発信し、各学校における一人一人の子供の可能性を伸ばす授業づくりを推進する。

